

---

# AV女優「ミサ」

シー様（借りの返せない雄）

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

AV女優「ミサ」

### 【Nコード】

N7758J

### 【作者名】

シー様（借りの返せない雄）

### 【あらすじ】

AV女優ミサが頑張る日々

私は売れっ子AV女優「ミサ」  
自分の仕事に誇りを持っている。

私の一回の仕事は、世の男1万人を逝かす事ができるのだ。  
男達はモニターの目の前で幸せなひとときを味わう。  
私は、1万人の男達を幸せにし笑顔にしているのである。

だけど世間は、そんな風に思っちゃくれない。

「胸を張って友達や親に言えないのだから、それは誇りとは違う。  
自己満足に過ぎない」  
とか、言われる。

確かに、その通りなんだ・・・

ヒトに胸を張って言えない・・・

自分は、この仕事に誇り持ち、ファンの為に頑張る事に生き甲斐を  
感じている。

反面、皆と同じ世界から隔絶されている事に対して孤独感も持っ  
ている。

できるなら皆に、私の事を理解して欲しい。

否定されるのは、やっぱり嫌なんだ。  
寂しいんだ！  
だから私は、自己主張する！

けど・・・

メンドクサイや~~~~

こつこつのは、きつとフマンの方々が頑張ってくれると思ってるので、  
私は、自分らしく生きて、毎日頑張ってるこつこつと思ってる~~~~

だけど・・・

定年まで、もう後僅かしかない！

AV女優のピークは10年と言われている。

その10年目が今、私に訪れているのである。

今年で30歳になる訳だが・・・貯金がない

高級ベントツとか、服とか旅行とか、金を使いまくってしまっ  
て貯金が無いの。

これじゃあ、将来が不安だわ！ 一体どうしたらいい？ ねえ！  
神様！！ おしえて~~~~~

「イエス

???

「イエスが教えて進ぜよう。」

目の前になんか見えた――――！！！！！！

え?? え?? イエスキリスト? 何これ? 夢?

「貴方はだあれ?

「私は神、イエスキリストです。」

これは夢に違いないわ。

「職業は?

「神です。」

「ちんこ大きさは？」

「・・・とりあえず。君は、もう直ぐリストラされます。お払い箱になります。でも大丈夫。君は風俗で働けば良いのである。」

「え~~~~~? 私の体は高いのに~~~~!! 安売りしたくない~~~~!!、

「違う違う! 肉体売る風俗じゃない。キャバクラ、いわゆるキャバ嬢になるのである。」

「えー!? 接客嫌い!! メンドクセイ!!

「黙らっしや~~~~~い!!!!!!

そう叫んで神は、ヘンテコな踊りを始めました・・・時折、「るばんがー」と、叫びながら・・・

・  
・  
・  
・  
・  
・

気が付くと私はベットの上で目を覚ました。

いつもと何気ない風景がそこにあり、全てが夢だった。

私は、いつもの様に身支度を整える為に鏡の前に立ったその時・・・

顔が、キリストに成っていた



そんなこんなで、神は、ミサの顔を潰した。  
神の言う事を聞いて、キャバ嬢に成らない限り、顔は元に戻らない  
そうである。

そんなこんなでミサはキャバ嬢になったのだった・・・

〈入店一日目〉

「ばかやるーーーー！！！！」

店長は激怒している。

理由は、ミサが、なりふり構わずに客の股間を触ってしまうからである。

「いいか！　ここは清い店なんだ。

基本、ある程度のスキンシップ的なボディタッチは、客にされたとしても、キャバ嬢が自ら客の股間を触ってはいけない。

店の品位が崩れるんだよ！

ミサは、反論したい気持ちで一杯だった。

なぜなら元売れっ子のAV女優が割安で直に奉仕しているからだ。  
客の喜びも半端ではなく、ミサとしては、人を喜ばせて怒られるのは納得がいかなかった。

だが、もつと納得いかないのは、同僚のキャバ嬢である。

元売れっ子AV女優の肩書きは伊達じゃなく、この店でナンバー

ワンを争っていたアネロとルーチカを押しつけ一日にしてトップとなったのである。

それどころか、総ての客をミサに奪われ、完全にプチ失業状態なのである。

そんなこんなでミサは、アネロとルーチカをリーダー格としてキヤバ嬢の陰湿ないじめに合うのでした・・・

というのは嘘で被害妄想の強いミサは、客を奪った事に対して怖い事が起こる妄想をしていたのでした。

ところが、どっこい。

ミサの接客はダメダメな態度があからさま過ぎて、3日目でミサブームは終わったのである。

〈5日目〉

「なんで、ウチが、こんなことせにゃならん！」

ミサは愚痴りながら、便所掃除をしていた。

その姿は、さながら哀れなシンデレラに見える。

と、そこへ一人の枯れた女が声を掛けて来た。

女の名前は河野夜（源氏名）

ミサと同じ様に業界で年齢のピークを超えてしまいお払い箱になっている。

河野は現在、若い娘達のサポート役、いわゆる引き立て役に徹して日々の仕事をしているのだが、いかんせん河野自身が納得できて

いない。

自分が女として枯れて客に必要とされない立場に当然の様に劣等感を抱えているのだ

「ミサちゃん　そこー！　全然、綺麗になつてないじゃない！  
あなたは、それでも社会人なの！?!?!?!」

河野は、日頃のウツプンをミサに八つ当たりして晴らしていた。

作者は、てつきり、ピークが終わって枯れた者同士だから、ミサに優しく声を掛けるものと思っていたが、河野がミサの業界10年ルールの事情を知るよしもない訳で、躊躇無く八つ当たりするのでした。

そんな河野のあからさまな態度にブチ切れたミサは言った。

「嗚呼〜！　河野さん　イヤ！　やめて〜〜〜〜〜」  
ハアハア　（；、）

ミサの発した言葉は、いわゆる隠語だった。  
これには流石の河野もドン引き。

「私は、仕事でズーレ（レズ）もヤツテルんだからね！　河野さんを犯す事だつてワケナイんだからね！！」

このキメ台詞が河野に恐怖を覚えさせた。

この日から、河野はミサに絡むのを止めてしまいました。

そうやってミサは何人たりとも敵を寄せ付けずにわが道を進み続

けた・・・

ミサがキャバの仕事に慣れたある日のこと

「ヤダよ～～～あのお客さん、ブラのホックを外そうとしてきたよ～～～」(泣)

ルーチカは、しつこくボディタッチする客の悪口をぼやいていた。相手はVIPな客だから対応に困っているのだ。河野とアネロも一緒になって、愚痴トークに花を咲かせていた。

その愚痴を聞いていたミサは、突然、3人に説教を始めた。

「あんたら、何いってんの？  
男を馬鹿にするのもええかんげんにせえよ。」

いやいや接客してやっているという態度で客の相手しとつたら、失礼とちゃうか？  
いくら、表面上サービスが上手くても、そんなんじゃ、あんたがツマランだろうが。

男に愛想振りまくのが嫌なら、見下されんような価値ある女として振舞う方法だってある。

触られたら、「ぶざけんじゃねー！ー！ー！ー！」と叫ぶのも大切だぞ。

ええか、良くみとけ。

そういつてミサは、ボディタッチの多いVIP客に向かって、ドス効いた声で怒鳴るのでした・・・

そして、VIPな客を怒らせ追い出していました・・・

が、その日の売り上げは・・・  
なんと、ミサが一番だったのです。

その理由をミサは高らかに仲間達に説明する。

「判ったか皆？」

これは、いわゆるニーズの問題なんや。

客は、当たり前のような接客には本来飽き飽きしとるんや。

そういう客は、感覚が麻痺していて、逆に気の強いツンデレの様なタイプの女に希少価値を見出してしまふんや。

それに、ここは勝負の世界や、仲間同士で客の指名を取り合うんや。仲間と同じようなやり方していたら勝てないし、客としても同じ様な女しかおらん店なんかに来とうない！

皆で力を合わせんるんや。

それぞれが、オンリーワンを目指して、接客すれば店も発展する。

まず、ルーチカ！ お前は、ネコ耳を付けてメイド服を着てニヤンニヤン言葉を使え！

次に、アネロ！ お前は、チャイナドレスを着て、言葉遣いも中華っぽくカタコトを使え！

そして、最後は河野！ お前は年相応だから、子供が3人居てバツ一という事にしろ！ サポート役や世間話の際には、さり気無く、子供の話をして同情を引け！

男の保護欲を爆発させる！

なんや？

納得いかんのか？

どうやらキャバ嬢の存在意義について、皆は良く思っていないらしく、仕事への情熱が注げないらしい。

ミサは、またも説教を始めた。

「男はなぜ、キャバクラに来ると思う？」

女としたいならヤレル店に行くだろう。

なぜ、キャバか・・・キャバに来る男共は基本、病んでるんだよ。心が、寂しいというてるんや。

自分の仕事や自慢話、日頃の些細な出来事を誰かに聞いてほしい。

だけど、世の中、そんな都合の良い友達や彼女はできへんやろ。家族である妻や子供は、パパを毛嫌いして相手はしない。

妻子が居て、他の女に貢ぐというのも良く無い感じだが、それでええんや。

どうせ、妻子に金が流れても対したものには使われ無い。

そもそも、妻子に金を使わない様な男なら、他の所で使ってしまうやろ。

そんなマヤカシの家族仲なんて、いずれ壊れるんだから、壊しとけばいい。

壊れた家族を見て育つ子供が可哀想かもしれないが、それは子供にとって反面教師となり将来で必ず+に働く。

キヤバは一般的に他の業種より大きく儲かるんだから、それは儲かった分をどう使うかという事も社会的な価値に関わってくる。

いわば労力に見合わない金を手にしている様なものだ。

得た金をボランティアや募金にでも回せば、その貢献は、普通の仕事よりも確実に世の中に貢献した証となる。

それに世の中に確実に貢献しているかもしれない事例が一つだけある。

それは、余命宣告されたモテナイ真面目な男の為である。

そういう男は、女飢えてる筈なのに、真面目であるが故に風俗に行かない。

もし、風俗が無ければ女との楽しいひと時を知らず死んでいくのだ。人として最低限度の幸せを得る場所が存在しないのは、余りにも可哀想なのである。





## 2 (後書き)

一応、説明しとくと、このミサの様な立ち振る舞いは、男の心理の深い部分を知っていないと不可能なものである。

それは、ある種、男をどこまで強く敬えるかが鍵となっている。

通常の生き方をしていたら、この境地に女が辿り付くのは、まず、不可能であり、居るとしたら長年AV女優をやったのけ男の心理を知り尽くし尚且つ世間を知る努力をした者以外に考えられない。

皆が批判する職種で自己を誇り正当化するのは、大きな葛藤、あるいは苦悩を伴うものであると思うが、世間はどの程度その事を配慮するか考えたら、あんまりな感じがするのは、作者だけだろうか。

参考資料 風俗嬢の誇り

<http://simple-u.jp/pdone.php?id=607>

風俗嬢の人生

<http://bbs.onayamifree.com/thread/1221695/all/>

<http://okwave.jp/qa/q3145289.html>

と、はずみで書いてしまったが・・・  
なんだか怖ええ！  
いろいろ怖ええ！！

怖さで、○がしほみそうだ〜  
(、、(、、ぶるぶる・・・

しほみついでに、これを職業小説企画というのに応募しようかと思  
うのだがどう思う？

[http://www4.hp-ez.com/hp/syose  
tu/page1](http://www4.hp-ez.com/hp/syose<br/>tu/page1)

番外編、なぜミサはAV業界に入ったのか？ <就寝前>

ええ！？ 私が何でAV業界に入ったのかって？

うーん。親の借金返す為。というのは口実で、ちょっと自分の若い肌を記念に残しておきたかったのかもねーww

ウチの両親は、まあ人が良いというか、それで友達に騙されて借金を背負ったのだけど、正直、私はウンザリだった。

「なんでお前ら莫大な借金抱えて遊んでるねん！！」  
って感じだった。勿論、借金を返すつもりがあるのだろうか、どこか他人事な感じだったんだ。毎日、騙して逃げた友人の悪口を言つては、あのとときあしとけばなんて愚痴るばかり。多分、この先、仕事が上手く行かなくても自己破産すればなんとかるだろうとか思ってたのかも。路頭に迷っても生活保護とか期待してたんじゃない？ それほど日々を真剣に生きてる様に見えないなかったんだ。

そう思うとき、なんだか無性に、腹が立ってたんだ。

向上心が0というか人生を後ろ向きな負け組みみたいな感じ？

そんな両親に、私は成りたくなかったんだと思う。

その両親により覇気の無い人生に引きずり込まれてしまう自分に恐怖を感じたんだ。

だから私は金を返したい。そして覇気の無い両親に一泡噴かせてやりたいと思ったんだ。

>だからAVに？

いいや・・・別にそういう訳じゃなくてさ、普通にバイトしたね。それに借金の額は1000万だったし、成せば成りそうな気がした。借金といっても、バイトで返せない額でもないし。

勿論、風俗という道が頭をチラツと過ぎったけど、知らない男に抱かれるのは気持ちが悪いし、絶対無理だって思ってた。そもそも私だまだ17歳だし、ありえんし。

だから、近所のレンタルDVDショップで働いてただけ・・・

お客さんがAVをレンタルしていくのね。

最初は、ちよつとビックリしたけどAVコーナーがあるのだし考えてみれば至極当然の事だと思った。

だけど理解できなかったのよね。男は何でこんな見るんだろうって・・・気持ち悪いー！って思ってた。

だけどある日、あごがれてた先輩がAVを借りに来てたの。凄く、シヨックだったし、気まずかった。

そんで幻滅した。

そしたら、先輩が「お、お、お、男なら、み、みんな、こ、こっぴうのが好きなんだぞ。悪いか！」

って、冷や汗かきながら言い訳してきたの。

あまりのドリフト的な展開に、思わず笑って・・・

その時かな、ちょっとだけ、先輩が借りたのと同じAVのDVDを見てみようかと思ったの。

まあ、そんで見たら、まあ、気持ち悪いのなんの。

クネクネウヨウヨうじ虫かと思うような光景に更に、訳が判らなくなつた。

あんあん、やんやんやってて、・・・なんか気持ちよさそうに見えたりもしたけど、。

でも、やっぱり気持ち悪るかつた。

私は気に成つて、勇気を出して先輩に聞いてみたんだ。

あれのどこが良いのっ？ てね。

そしたら

「女に判る筈ない」

つて一言、言われたのねw

なんか不に落ちなかつた。

しかも、聞けば聞くほど、様子がオカシクなつて、私に迫るといふか、付き合おうとか言ってくる様になつて・・・

とりあえず、お断りしたけどねww

昔の理想の先輩と今の先輩のギャップを比べてると、ホントに訳が判らなかつた。

男は皆、こうなるものなのか？

いやいや、判らん。サンプルが少なすぎるし・・・

そんな、もんもんとした疑問を抱えたある日、ショップにAV女優がやってきたの。

ビックリしたよ。沢山のブ男がサインとか握手とか求めるんだよ。きもい。

良くまあ女優さんは耐えられるものだなあ〜  
と、半ば関心し、あっけに取られていたら、その人が私の近くに寄  
ってきて言ったの。

「君AVとか興味ある？」

なんでそんな事聞くのが良く判らなかつたけど、興味が無いと答え  
たの。

そしたら凄くガツカリしてて、将来AV女優をやって欲しいとかな  
んとか。

まあ、自分で言うのもあれだけど美形だし、まあ、その気持ちは判  
らんでもない。

でも、なんでAV女優さんがAV女優さんを誘うのか、少し疑問だ  
つたのね。

それに思ったよりも気さくな感じで話すものだから、ついでにいま  
で感じてたモヤモヤも聞いてみたんだ

そしたら、先輩と同じ事を言ったんだ。

「女に判る筈ない」って、

AV女優でも、判らないなんて、意味が判らない。

じゃあ、どうやって演技しているのか聞いたら、「監督の指示に従  
う」とか「台本を読む、練習する」と答えが返ってきたのね。

この時の事は上手く説明できないのだけど、なぜだが、その人がカ  
ッコよく見えたのね。AVって言っても、結局は役者さんがやって  
るんだなって。

そう思うと、なんかDVDの中身どこのここのより、仕事の方に興  
味が出てきたというか、それで色々、聞いてたら、更に興味が沸い  
て来てさ、

そしたら女優さんがアエギ声を生で見せてくれるのだけど、これが妙に面白いのw  
鼻くそ穿りながら、喘ぐもんだから、色気もセクシーさもありもしない。  
こんな人を男共は崇拜しているんだと思ったら、笑いが止まらなくてさ……

今、思えば、この時点でAV業界に転進するのは決まっていたのかも  
しれない。

その人に洗脳されて、気が付いたらスタジオに言っつて、プレイを  
生でみて。

テレビで見るより生々しくなくてさ、本番も始まってはカットし、  
取ればカットし、思っていたSEXとは、まるで違ったのね。

勿論、男に抱かれるのは同じだけど、最初思ってたほど、嫌悪感  
感じなかったのね。

ちよつとだけ、女優さんの筋肉さわったりで……

色々、女優さんにも男と女について聞いたのね。

そしたら、今度はAV女優さんと同じ答えが返ってきたのね。

台本や監督に従うとかは同じだし、あまりエッチな気分じゃってな  
いそうでした。

何回も何回も美女の裸みてたら、3年で飽きるそう、後は演技力  
が全てとか……

やらせプレイとか言って、実際はHなしでHのしているように見せ  
かけるだけの仕事もあるそう……

その高い給料を聞いた時は「あ、仕事やめたい！」って 即効で思  
ったね。

こっちの方が遥かに手っ取り早いし、メイクして髪型変えたら身分

なんてまず、ばれないらしい・・・

そんな感じで金に目がくらんで誘われたね。  
けど、ばれちゃったw

だってさ、急に金回りが良くなるんだよ。  
ついつい遊びほうけるさ。

でもさ、周囲が私をおかしな目で見るようになってさ、援助交際してるとか、風俗してるとか、悪い噂が近所に流れる様になったのね。

悔しかったよあ。本当の事は言えるはずもないし、ただ耐えるしかない。

でも、耐えれば耐える程、ストレスが溜まるといっつか、発散したくなって金使っちゃう。そんな事してたら、親に問い詰められちゃって・・・

つい本当の事、言っちゃったの。  
信じて欲しかったの。

やましいことは何も無いつて、  
だけど、理解されなかった。

世間知らずの恥で、楽しんで稼ごうとしてるとか、フシダラだとか。  
直接、言われた訳じゃないけど、そんな風に思われてるのをヒシヒシ感じた。

sonで止めると言われたときなのだけども、なんか自分の人生を否定された気がしたんだよね。

自分で選んで働いて、希望を持って努力して、でも、そのことは親は判ってくれなかった。

表面上判った振りをしているとしか見えなかった。どこか軽蔑の眼



差しが見えた気がして・・・

この時、間がさしたのだと思う。  
もう、既に仕事相手の男の人に抱かれるのは慣れてたし、本物をや  
つてもいいような気分だったの。  
で、やって、流されて仕事引き受けてしまったのね。

その後はあんまり覚えていない。  
今までの仕事内容がさま変わりして忙しくなったし、あれこれ考え  
なくても良かったし・・・  
自分の事を判ってくれない親なんて、もう、どうでも良くなってた  
し、だから自分からバラシタノだと思っ  
復讐心みたいなものかもしれない。  
今思えば、凄く後悔してるけど、今更、どうにもならない。

最後に見たのは親の泣き顔だったかな  
それが、吹っ切らせたのかも。。  
たぶん。そうだ。  
そうだと思っ。

私の事を必要としてくれる仲間と視聴者、彼らの幸せが、もう、既  
に私の幸せみたいなものになってたからね。  
そういう証が形で残るものだから、どうしてもこの世界で更に大き  
な証を残したかったの。

別に寂しくないよ。私にはココがあるし。

.....

確かにね、勿論、そうしなきゃ自分の存在価値が認識できなかった  
のもあるけど.....

そついうのを考えるのは、もうメンドクサイよ。

え？

今更？

自分から会ってどつすんのやっ..

謝れないよ.....

仕事だってあるし、金使っちゃうし、やっぱり金欲しいし.....  
だからさ、別にいいじゃん。

もう！ ほつといてよねー！

ウルサイ！

もう、寝るんだから静かにしてよねー！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7758j/>

---

AV女優「ミサ」

2010年12月18日20時00分発行